

KTK 京都ライトハウス通信 第101号

編集人 鈴木紘一 / 社会福祉法人 京都ライトハウス / 〒603-8302 京都市北区紫野花ノ坊町 11
代表番号 TEL 075-462-4400 FAX 075-462-4402 / 烏居寮 TEL 075-463-6455 / 船岡寮 TEL 075-463-4649 FAX 075-467-2788
URL: <http://www.kyoto-lighthouse.or.jp> / E-mail: info@kyoto-lighthouse.or.jp
郵便局振替番号 (京都ライトハウス) (運営資金寄付) 00960-5-153295 (後援会) 01090-3-9080 / 1979年(昭和54年)8月15日創刊



第22回視覚障害者京都マラソン大会報告

3月6日(日)、まさに春の息吹を感じさせる青空の下、第22回視覚障害者京都マラソン大会を西京極総合運動公園陸上競技場およびその周辺道路で開催いたしました。

この大会は、視覚障害者のみを対象としたロードレースで、毎年全国から多くの視覚に障害のあるランナーが参加されています。今回も北は栃木県、南は沖縄県から集った、13歳から73歳までの116名ものランナーが、ボランティアの伴走者とともに日頃の練習の成果をいかに発揮されました。

今回は大会実行委員会と株式会社わかさ生活の共催となり、より多くのランナーに参加していただくと共に、広く一般府市民にも知っていただくよう様々な取り組みを行いました。

まず、昨年のアテネパラリンピック男子マラソン(視覚障害者Iの部)で金メダルを獲得された『高橋勇市』選手を招待選手としてお招きし、10km男子全盲の部にはエントリー、1km男子全盲の部にはゲストランナーとして出場いただきました。高橋選手は大会開催中、アテネでの金メダルを披露され、ランナーだけでなくスタッフも含めた多くの方々とのふれあいにご協力いただきました。

また、京都市少年合唱団や立命館大学吹奏楽部にもご

協力をお願いし、開会式や閉会式でご披露いただきました。特に、京都市少年合唱団の皆様には『視覚障害者による手引き体験会』にもご参加いただきました。

もちろん競技も盛り上がり、3km男子弱視の部では14年ぶりに大会記録が更新された他、高橋選手と地元のトップランナーとのデッドヒートはゴール直前まで繰り広げられました。何より、沿道や競技場にお越しいただいた方々の大きな声援や拍手は、懸命に走るランナーを大いに勇気付けてくれました。

このように、この大会は本当に多くの方々を支えています。ノーマライゼーションの理念の浸透がうたわれる今日、マラソンを通じて多くの一般府市民と視覚障害者がふれあえるこの大会は、正にその実践の場であると言えます。改めて、この大会の持つ意味と役割を見つめ直し、いつまでも視覚に障害のある方々が気軽に参加できる大会であり続けられるよう努力して参りたいと思います。

最後になりましたが、今大会の趣旨をご理解いただき、多大なご協力を賜りました関係団体ならびにボランティアの方々、そして周辺地域の皆様方に心より感謝申し上げます。盛会裏に終了したことをお伝えし、報告とさせていただきます。

京都ライトハウスのさらなる拡充を目指して —皆さんと共に歩む施設作り—

(最終回) ユニバーサルデザインに配慮した施設を目指して!

本年2月8日京都市と京都ライトハウス主催の「みやこユニバーサル条例」のシンポジウムと施設見学会が当施設で開催され、多くの市民の参加がありました。京都市障害保健福祉部長から条例化の説明が行われ、その後、学識経験者や建築家、障害者施設の代表がパネラーとなってシンポジウムが開かれました。京都ライトハウスからもこれまでの建設に込められたユニバーサルデザインに配慮した建物作りの取り組みと課題について報告させていただきました。

京都ライトハウスが完成して早1年になろうとしています。この間頂戴した皆さんからのご意見やご要望がどのように「ユニバーサルデザイン研究会」に反映されているのかについてお伝えして参りたいと思います。

ご承知の通り、本施設の利用者の大半は視覚障害者ですが、新施設になってからは視覚以外の障害者の利用が増えました。当然そうした利用拡大を想定して施設建設が行われましたが、いざ開館してみるといろいろな意見や想いが寄せられました。そのことを私達が媒介となって「ユニバーサルデザイン研究会」の委員に伝えていく役割も仕事の一つです。また、そうした課題をいかに改善していくかということで、京都府視覚障害者協会との間に「京都ライトハウス運営協議会」を設けました。

第1に、開館直後にお聞きした意見の多くは、「広くなった廊下」や「各階ロビーの手がかりの少なさ」からくる移動上の不安でした。特に、1階と3階は数多くの指摘を受けました。これについては早速、昨年4月から6月と、11月から12月の2回に分けて京都大学工学部の建築の専門化による「行動観察実験」が、多くの利用者に協力していただき実施されました。最近実施した「職員アンケート」の結果からは、1階、3階の「円形カウンター」が方向どりで不便だとか、玄関から階段室・トイレなどへの移動に困っておられる利用者を見かける、という指摘をいただきました。今後、なんらかの手がかり表示の必要性があるとすれば、どんなものが適当なのか、それこそ新たなバリアとならない創意工夫が求められています。

第2には、弱視者対応の不充分さです。少なくともこれからの施設は「弱視者の利用に配慮したものでなければならない」という共通認識の上で建設設計に意見を述べてきました。しかし、個人差があるのはともかく、多くの弱視者からは、もっと色のコントラストが欲しいという声があがっています。特に、床と壁やドア、男女トイレの識別マークの色合い、部屋表示の

方法や文字の大きさなども含めてまだまだ十分とは言えない、との声がありました。これについては、先の京都市とライトハウスが共催したシンポジウムで本施設の取り組みから、「色彩計画の標準化」について建築設計に盛り込むべきだとする意見を述べたのははじめ、今後とも、こうした市民共通の色彩環境についての問題はもっと幅広く本施設から発信していかなければならない課題だと再認識しています。

第3には、なにがユニバーサルデザインなのかということを再度考え直す必要性を感じたことです。たしかに、階段や手摺、誘導ブロックの敷設や音声案内は物理的なバリアを除去するうえで欠かせないいわば常識的な基準です。今回実施した「職員アンケート」にも意見が寄せられましたが、「館内の点字ブロックの敷設と車椅子障害者の共存を図るための手立てが欠如している」との指摘は正に障害者間の配慮に欠けた部分です。総合施設を標榜する京都ライトハウスとしては、極めて残念なことです。仮に、バリアのない建物が完成したとしても、「声かけを基本とした人的サービス」は視覚障害者のみならず全てのサービスの原点だと思っています。


「継続は力なり」と申します。これまで目指してきた「ユニバーサルデザインに配慮した施設作り」への取り組みは更に課題を明確にしながら継続して参ります。そして、何よりも、利用者サービスのユニバーサルデザインとは何かを問い返し、一人一人の職員がハードだけではなく、ソフト面の拡充に向け努力して参りたいと思います。

今号でこの欄は終了させていただきます。皆さんと共に歩む施設作りに今後とも引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願いたします。

家族のこと、環境のこと考えたら・・・

「健やかづくり」※ はじめませんか!
～家も呼吸しているのが伝わってくる～


竹炭入り 天然の空気清浄塗壁材 うづくり健康フローリング
清活畳※ 幻の漆喰 音響熟成®木材



新築はもちろん、増改築・介護リフォームも安心施 致します

「健やかづくり」のシステム互法
株式会社 ケアライフシステム
京都市下京区中堂寺南町105
GH五条701 (五条七本松東南角)
TEL: 075-323-0330 FAX: 075-200-1034

アトピーや喘息、シックハウスでお困りの方など
特に実感して頂けます

Care Life System 
http://www.CLS0333.com



過ぎ去ろうとしない過去

(このタイトルは、私が突然視覚障害者となる5日ほど前に買った本から拝借したものである。)

おおくぼ かずひで
大久保 和英

今の私は、「きらめき」とはあまり縁がない。退行的ではあるが、過去をふり返れば何か書けそうな気がする。私の「過ぎ去ろうとしない過去」である。

もともと活字と新しい本のおいが好きだった私は、長い間、本づくりに関わる業務にたずさわってきた。この仕事に就くときに予想はしていたけれども、すべてが発行日に向かって動いていく「時間との闘い」の世界である。私自身もしめ切りに追われ、また印刷事故があればその処理に追われ、残業続きの毎日であった。損害額が何百万円にもなるような重大事故はそうめったに起こるものではないが、営業担当が会社に戻るなり、内勤の私に「大久保さん、えらいこっちゃ!」という場面はよくあった。入社してしばらくの間はこのことばにドキッとしたものであるが、いつの間にか慣れてしまったように思う。

何度か「もう辞めよう」と思ったこともある。ところがである。

当時、しんどくなかったといえようそになる。しかし、夜中に校了の手配をしながら、「因果な商売だよねえ」などと、同僚といっていた自分のことが好きだったことも確かである。

あの忙しさの中に戻りたいと、今も思うことがある。叶わぬ夢だからこそそう思うのかも知れない。流されるままに日々を過ごしてきたと思っていたはずなのに、それはほんとうは素敵な時間だった。ここで少しは「きらめき」というテーマに近づいたかな。

過去をふり返って感慨にふけることはだれにでもある

ことだが、過去によりどころを見い出そうとするのは、途中で障害を負ったものの宿命であろうか。もちろん、幼い頃から障害を持っている人たちと比べることはできない。

現在、私は京都ライトハウスに勤務している。過去に思いをはせてばかりいては、今私と関わりを持ってきている人や私を応援してくれている人たちに対して無礼である。今は、過去にそうしてきたように、自分の務めを果たすことが第一であると思う。

今の自分が輝いているとは思わないし、それを求めることを考えてもいない。いつか今の職場を去った後、「あの頃はああだったなあ、こうだったなあ」と、ライトハウスでのことをふり返ることができればそれでよい。

講演会などで、障害者のサクセスストーリーが語られることがよくある。それは貴重な体験談であり、敬服に値する。しかし、障害者のだれもがそうなれるわけではないことはご存じの通りである。例えば、途中で視覚障害者となった人たちの中には、とにかく何とかしなければと、盲学校や視力障害者福祉センターなどに通っている人が少なくない。またやっとの思いで鍼灸院を開き、いつ来るか知れないお客を待ち続けている人もいる。それぞれの「過ぎ去ろうとしない過去」を引きずりながら、地をほうような思いで人知れず努力を続けているたくさんの方がいることを、読者の皆さんにはいつも心の中にとどめておいていただきたい。

執筆者紹介



略歴：静岡大学理学部数学科を卒業後、株式会社デジテックジャパン(在京都)に入社。印刷、出版に関わる業務を担当。およそ4年前に視覚障害者となり同社を退社。現在、京都ライトハウス「FSTモニター」に勤務。

永年の信用・まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社/京都市中京区烏丸通三条下ル ☎075(221)4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200

◆ 葬 儀 式 場 ◆
公益社北プライトホール(堀川東)京都市北区紫明通堀川東入 ☎(075)414-0420
公益社中央プライトホール(五條)京都市東山区五條通大和大路 ☎(075)551-5555
公益社南プライトホール(堀川八条)京都市南区堀川通八条下ル西側 ☎(075)662-0042
公益社宇治プライトホール(宇治横島)宇治市横島町(文教大学前) ☎(0774)20-0142
公益社滋賀プライトホール(大津)大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042

消防設備・設計・施工・監理

その他消防用品販売



近畿報知機株式会社

京都市右京区嵯峨野嵯峨ノ段町1の17
電話 (075) 881-2738 番(代)
FAX (075) 881-8188 番

ライトハウス探訪 **こんなことしています!** 第26回

ほほえみ会・川柳勉強会

おくやま はるお
奥山 晴生

「ライトハウスで視覚障害者たちに川柳の指導をしていただきたいのですが・・・」と依頼の電話を入れて来たのは故島津幸光さんでした。視覚障害者については未知の部分が多く不安ではありましたが島津氏の「へんに意識せず気楽に話してもらえばいい」という言葉に思い切って引き受ける事にしました。『ほほえみ会・川柳勉強会』の誕生です。

現在会員は約20人、男性は私を含め5人で、皆様のお世話をしながら川柳を詠む女性が7人いて教室は完全に女性上位です。

ライトハウス・船岡クラブには多数のサークルがありますが、そのほとんどは先生の指導に従って発声したり、指先や手足を動かして修得されていますが川柳や俳句は創作です。受講者は頭をひねって作品を創り出すのです。

川柳句会は通常いくつかの宿題を出しておき、句会当日に席題と言って即席で作句していただいた作品を含めて各選者が選句し入選句等を発表するのですが、『ほほえみ会』の場合は点字の読めない私に代わってボランティアの浜田さつきさんへ勉強会の1週間前までに電話または点字で投句して頂きます。浜田さんはそれを清記して私方へ郵送、私は句会当日に全作品と作者を発表しながら句評あるいは添削など致します。表彰台というコーナーを作って佳句を発表しているのは作句の励みになると思うからです。

「川柳は17音字のリズムで人間を詠む短詩文芸です。毎回宿題を1題出しますから、それをヒントに自分自身が感じた事、生活の中での喜怒哀楽、家族や友人への想いなどを五・七・五で表現して下さい」これが勉強会で最初に教えた言葉です。その日から4年余、近頃では「駄洒落や言葉遊びは川柳ではない、報告や説明だけの句は駄目、省略を考えてください、意味重ねは不要です、心に響く余韻の有る句を書いてください」等々厳しい指導をする様になりましたが、これは受講者が上達したからで、事実、昨年度初めて参加した京都府・市主催、身体障害者の『とっておきの芸術祭』で2人が佳作入選し表彰されております。

『ほほえみ会』では春・秋の2度、吟行句会を開催しております。と言っても特別な句会ではなく、要は屋外で弁当を食べながらの句会ですが、これは島津幸光氏の「ともすれば家の中に引き籠り勝ちな視覚障害者に外へ出る勇気を持っていただきたい、野外で仲間たちと食事をする楽しさを味わってほしい」という想いを実現させたものです。

吟行句会は雨天中止ですが過去に植物園、平野神社、

梅小路公園等で開催しております。健常者の中には視覚障害者が何故?と不審に思われる方も多いようですが、花や木に触れ、花の香り、風の匂いを感じる喜びがあるのです。梅小路公園では句会の後、蒸気機関車の運転席に座って楽しんでもらいました。島津氏は昨年秋急逝されましたが、氏の想いは会員たちが引き継ぎ、吟行句会を続けて行く所存です。

昨年秋の『ライトハウス・船岡まつり』で川柳勉強会の模様を舞台で実演しましたので来場された方にはほほご理解願えたと思います。

川柳勉強会は毎月第4水曜日の午後、ライトハウスで開催しており、白杖一本を頼りに単身で、あるいはヘルパー同伴で来会されます。余程の理由がなければ休みません。そして皆さんよく笑ってくれます。これが一番の喜びです。

句会の目的には川柳の普及と作句力の上達がありますが、その底流に会員のやる気と笑顔が有る事を申し述べておきます。



点訳サービス・点字図書出版

有限
会社

オフィス

リエゾン

視覚障害者手帳をお持ちの人は点字図書が原本価格で購入できます。

出版総目録(墨字・点字)を無料でお送りします。

外国語・楽譜・立体コピー作図なども点訳しています。お気軽にお問い合わせください。

TEL: 0774-56-3907

E-mail: liaison@kk.ij4u.or.jp

ホームページ: http://liaison.ne.jp

〒610-0121 城陽市寺田市ノ久保2-63



鳥居寮

なかよしカラオケサークル

鳥居寮入所・通所しながら生活訓練を受けておられる方たちの自主的なサークル活動のひとつに、カラオケサークルがあります。

寮生の中で歌の好きな方たち数人が世話役になって、11月から月に1,2回火曜日の夜に、ライトハウスの音楽室で例会をしています

カラオケの機械は、デイサービス「らくらく」の通信カラオケセットと、音楽DVDを借りています。

最新の若い人向きの曲から、懐メロや演歌まで自由に歌って楽しんでいます。参加している方たちは、みんなが楽しめるようにお互いに盛り上げあってとても良い雰囲気です。なかには歌のすごくうまい人もいれば、その正反対の人もいます。でもみんな本当に歌うことが好きなんだなあというのが良くわかる集まりです。

鳥居寮では、毎年3月になるとたくさんの方が次の目標を持って訓練を終了して行きます。今年も25人が終了されましたが、みんなで歌った思い出は心の中にずっと残りそうな気がしています。



F S トモニー

F S トモニーは4月からリニューアル

定員を20人から25人に増員します。

昨年4月開所以来、お陰をもちまして利用者数は定員を満たしております。その結果として新たにご利用を希望される方には待機していただく状態が続いておりました。また、新年度を迎えるにあたって養護学校など新規卒業生の皆様からも強いご希望をいただきました。食堂

や作業室などやや手狭にはなりますが、できる限り多くの利用者のご要望にお応えするために増員へと踏み切りました。

授産科目を開所当初のオフセット印刷、点字印刷、テープ起こし、紙鉢製作の4科目に古布事業と喫茶事業の2科目の本格稼働を加えて6科目とします。

古布事業は、頂戴しました和服の古着を丁寧にほどこき、洗濯、アイロンの後いろいろな商品に変身させます。小物では葉や裁縫の針山、良質の「脂とり紙」もついているケースなど。女性にとっても人気のギャルソンエプロンは製作が間に合わないくらい注文が殺到しています。

1階の喫茶きらきらをF S トモニーが営業することになりました。きらきは来館者や地域の皆様にご利用いただき連日たくさんのお客様で賑わっております。「ふれあいの場」「憩いの場」そして「視覚障害者の働く場」であることがきらきらのモットーです。それらのさらなる充実と発展を目指します。ご要望の大きい食事の提供は少しでも早く実現できますよう準備しております。いましばらくお待ち下さい。なお、その準備のため5月6日の金曜日、きらきは臨時休業とします。ご協力お願いします。

F S トモニーではアイロンかけやミシン作業などのお手伝いをしていただけるボランティアを募集しています。半日でも結構です。ご連絡をおまちしております。電話 075-462-4467



4月1日「らくらく・F S トモニー開所記念日昼食会」出張寿司でお祝い

らくらく

春を探して嵐山へ

3月の初旬にふさわしく、まぶしい陽光が徐々に増えてきた昼下がり、春を探して思い切って嵐山へと全員で出かけました。視覚障害者の方や車いす利用の方などスタッフもあわせ総勢15人の一行で和気藹々と出発しました。

到着して最初の皆の感想が「うー、寒い」まだまだ春は名のみといったところでしたが、それでも紅梅を発見したり、桂川の川面のきらめきの変化を楽しんだり、渡月橋で思い出話に花を咲かせたりと思い思いの春を感じ取っていました。

皆が希望する外出ですが、いろいろな点で課題が多くな

かなか実現できない状況です。まずはスタッフ体制、外出になるとほぼ1対1での対応が必要でどうしても不足がちです。さらに外出先のハード面です。車いすの方への対応の遅れ。特に道とトイレが難点です。トイレの数の少なさ、それも洋式であるだけではだめで丈夫な手すりが設置されていること、車いすが一緒におけたり、着替え用のベッドなどのスペースがあるところがまだまだ少ないのが実態です。ここ嵐山でも超一般観光地であるにもかかわらず、やはりトイレ探しに難儀しました。川原では砂利に車いすの車輪がはまり込みなかなか進めなかったりもしました。今後はこのような面での整備改善も声を上げていかなければと思います。

これからは散歩などにご協力いただけるボランティアの方をもっと増やすなどして、より楽しい外出活動が出来るようさらに努めていきたいと思っています。



船岡寮

楽只小学校1、2年生との交流会

京都ライトハウスの向かい側にある、楽只小学校の生徒さんと、年間を通じて交流させていただいています。

7月の七夕交流会では、生徒さんと利用者がいっしょに折り紙や紙を切って、七夕かざりを作りました。生徒さんが利用者の方々の願い事を聞いて短冊に書いてくださり、七夕の歌をみんなで歌いました。

12月のクリスマス交流会では、一緒にリース作りをしました。ながぐつ形の形をしたフェルトにのりのできれいなビーズとか、いろいろなかたちのマカロニをつけたかわいらしいリースが出来ました。また、国語の本を読んでもくださり、クリスマスにちなんだクイズで楽しいひとときをすごしました。

3月は、今年度のまとめということで、とっても盛りだくさんで楽しい交流会が開かれました。手遊びでの指相撲、春に関係するクイズやお笑いコンビ2組によるコント・合唱や鍵盤ハーモニカの演奏等々がありました。みんなで、うれしいひなまつりの歌も歌いました。最後に生徒さんが色紙に一言ずつ言葉を書いてくださいました。それには、「2年間うたを歌ったりして、どうもあり

がとうございました。これからも元気でいてくださいね。」「七夕まつりやクリスマス会で、クイズやかざりをいっしょにしたのがとても楽しかったです。」など楽しかった思い出が書かれていました。

利用者の皆さんは大変喜ばれており、とてもなごりおしように子供さんの手をずっと握っている方もおられました。これからも、どうぞよろしくお願いします。

あいあい教室

ボランティアさんとともに…

「せんせい一緒にあそぼ！」と張り切っている子、「だれかな？」といった顔で緊張している子…。ボランティアのお兄さん・お姉さん達と過ごす時間には、子ども達ひとりひとりの色んな気持ちがあります。

職員でもない、お家の人でもない“大人”との出逢いは、子ども達にとってドキドキのできごと。

一緒に遊んだり、お話をしたり…そんなやりとりを重ねながら、恥ずかしそうにしていたり、緊張していた子ども達の様子少しずつ変わっていきます。一緒に遊ぶことを心待ちにするようになったり、声をかけてもらっては表情をほころばせたり…。子ども達は、それぞれ“出逢う楽しさ”を体験していくのです。

現在、あいあい教室には学生さんを中心に毎日ボランティアさんが来てくださっています。子ども達との時間に限らず、いろんな作業や行事のお手伝いもしていただき、本当に大活躍！福祉や子どもに関わることを学ぶ方だけでなく、さまざまな興味をもった方など、幅広く集まってくる力がたくさんあります。

みんなと一緒に集まって、にぎやかに響くいろんな声。そうしてプレイルームには、自然と明るい雰囲気があふれます。

そんなボランティアのみなさんがあいあいへ集まって来てくださることがとても嬉しく、ともに手をつなげることに心から感謝の思いでいます。ひとつひとつの出逢いや、かわわりを大切に、あいあい教室がこれからも明るく、あたたかい場所であれたら…と願っています。

情報ステーション・情報製作センター

第34回ボランティア・利用者の集いを終えて

去る3月3日(木)、京都ライトハウス4階ホールにおきまして、「第34回ボランティア・利用者の集い」が行われました。

当日は、山口理事長の挨拶の後、長い年月にわたって京都ライトハウス情報ステーションのさまざまな分野で活動していただきましたボランティアの方々へ感謝状をおわたしいたしました。

13時50分からは、光島孝之様から、「触る世界と見える世界」と言うテーマで講演をいただきました。学生さんのころ、ピカソの展覧会に行かれての感想に始まり、今、芸術家として活躍されるにいたるまでの事柄を、ビデオ

も交えて楽しくお話しくださいました。手では触れられない物も、見える人からのサポートを受けて楽しむことができる、ただ、専門的な解説よりも、その人の見たままを伝えられるほうが、コミュニケーションをとる楽しみがあるのだというお話が印象的でした。

当日おこしくくださった方は、利用者、ボランティアまた、デイサービス・らくらく、F S トモニの授産生合わせて、70人ほどでした。



ご参加くださいました皆様、ありがとうございました。なお、感謝状を受けられた方々は、次のとおりです。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

感謝状 贈呈

蔵書点訳	玉田 和江さん
	桑原美智子さん
点訳校正	佐野 瞳さん
蔵書音訳	服部 畝美さん
	下條 英子さん
音訳校正	竹井美津子さん
プライベート音訳	石村 淑子さん
作業(「情報ステーションだより」・「声の京都」・「府民だより」・雑誌プリント発送など)	石田 貞江さん
読み書きサービス	山崎テル子さん
	芝本 孝子さん
レファレンス	影山 五郎さん
サービス補助	山口 茂さん
対面読書	榎田 啓子さん

永年ボランティア

蔵書音訳	福田 孝子さん
プライベート音訳	高林 実子さん
音訳研究会講師	久坂 夏子さん

地域で学ぶ視覚障害児童・生徒の教科書点訳の窓口

視覚障害の児童・生徒が地域の小・中学校に行く場合、

点字や拡大文字の教科書が必要になりますが、盲学校用の教科書が使えるケースはきわめて希で、ほとんどの教科書はボランティア団体や保護者によって点訳されてきました。

製作のご苦労や労力は大変なもので、京都ライトハウスも何らかの形で関わるべきでは、と考えていましたが、点訳体制の脆弱さ、専門的な点訳の力量不足、関ることへの位置づけの弱さなどがあって、周囲の期待に応えられていませんでした。

しかし、新しいライトハウスとなって製作部門の再編とともに教科書点訳に関わる必要性を明確にし、施設として可能な限り製作にあたる一方、今日まで教科書製作を支えてこられた団体や個人に大きく依拠しつつ動き始めています。また他方では、公費による教科書保障が拡がりつつあり(注)、そうした動きを受けて「全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会」が発足し、全国レベルで支援体制が整備されようとしています。

製作と供給にあたってはさまざまな課題がありますが、一方的な製作にならないよう、事前の打ち合わせや要望をしっかりと踏まえ、よりよい教科書づくりを進めたいと考えています。さらに、今日まで教科書点訳を担われてきた関係者とともに、製作の経験交流、点訳技術の向上、ネットワーク体制の整備などの課題に取り組んでいきたいと考えています。

(注) 昨年、文部科学省が国会の答弁で義務教育の点字教科書を無償で給与するとしたことや、教科書保障を求める各地の運動が実を結び、公費による製作が拡がってきたことなど

おしらせ

■「あい・らぶ・ふえあ」のご報告

2005年の初頭を飾る第30回「あい・らぶ・ふえあ」は、1月13日から16日まで、計2,000人も多くのみなさまにお越しいただき、盛会のうちに幕を閉じました。

今回は記念となる第30回でもあり、「オープン・ユア・アイ 見える世界から見えない世界へ」と題して、見えにくい・見えない人たちの生活や情報にスポットをあて、多くのみなさまにおいでいただきご理解いただくことを目指して取り組みました。

4日間の概略は箏曲演奏、テーブルテニス(盲人卓球)、眼科医による白内障や黄斑部変性症の講演・相談、大きい点字の紹介、日本のお札とユーロのお札との比較、見えにくさをサポートしてくれる拡大読書器等、スポーツのコーナーでは目の不自由な人たちの球技で使うボールを集めて展示しました。また、洛西寮・盲導犬協会・F S トモニからの出展もありました。

ご来場いただきましたみなさまをはじめ、ご協力いただきましたみなさまに心より感謝し、厚く御礼申し上げます。これからも見えにくい・見えない人々たちへのご理

解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



■京都ライトハウスのホームページにご意見やご要望をお寄せ下さい!

昨年秋にリニューアルし、音声で聞きやすくなった、見栄えがよくなった、アクセスがしやすくなったと評価を得ています。

しかし、ロービジョンの方には少し見えづらかったり、各施設の情報が少ないなど課題もたくさんあります。

ぜひ、ホームページを見ていただいてご意見やご希望をお寄せいただきますよう、お願いいたします。

■次の通り、異動と採用を行いましたのでお知らせします。

異 動

平成 17 年 4 月 1 日付

身体障害者通所授産施設 F S トモニー
山本征司 (鳥居寮)

法人事務所

山本祐里江 (あいあい教室)

退 職

平成 16 年 12 月 31 日付

法人事務所 管理課長 江尻裕樹

平成 17 年 3 月 31 日付

法人事務所 辻 隆志

採 用

平成 17 年 1 月 1 日付

法人事務所 管理課長 丸田俊夫



お れ い

■財団法人中央競馬馬主社会福祉財団様

9月13日、情報製作センターで使います全自動製版機・点字ラインプリンター購入のため、高額のご寄付を頂戴しました。視覚障害者の方にタイムリーな情報提供が出来るよう活用させていただきます。

大変ありがとうございました。



■中澤眞佐様

12月22日、高額のご寄付を頂戴しました。船岡寮のために活用させていただきます。

大変ありがとうございました。

■梶寿美子様

12月23日、京都ライトハウスホールにおいて「ライトハウスチャリティー・思い出いっぱいコンサート」を開催され、今回も多額のご寄付を頂戴しました。運営資金として活用させていただきます。

大変ありがとうございました。

■中村やすろう文月会様・同チャリティーゴルフ同好会様

1月15日と16日、チャリティーコンサート及びチャリティーゴルフを開催され、多額のご寄付を頂戴しました。毎年、運営資金等に活用させていただいており、今回で6回目になります。

大変ありがとうございました。

■石動正和様

2月5日、京都コンサートホールにおいて「ヴァイオリンとピアノの夕べ」を開催され、多数の視覚障害者をご招待いただきました。

大変ありがとうございました。

■株式会社わかさ生活様

3月10日、多額のご寄付を頂戴しました。2001年からご寄付いただき、その後毎月商品の収益金の一部を建設資金や運営資金としてご寄付いただいています。

大変ありがとうございました。

■聖母学院中学高等学校コーラス部様

3月27日、京都市呉竹文化センターにおいて「第4回定期演奏会」を開催され、多数の視覚障害者をご招待いただきました。

大変ありがとうございました。

■アイフル株式会社様

3月31日、高額のご寄付を頂戴しました。毎年、運営資金として活用させていただいており、今回で7回目になります。

大変ありがとうございました。

■洋裁サークル・フシの実会様

3月31日、作品展即売会を開催され、多額のご寄付を頂戴しました。運営資金として活用させていただきます。

大変ありがとうございました。

■洛星中・高等学校オーケストラ部様

例年、チャリティーコンサートを開催されていますが、今年も4月9日に開催され、昨年に引き続き多額のご寄付を頂戴しました。運営資金として活用させていただきます。次回も引き続きご支援のお約束をいただきました。

大変ありがとうございました。

■聖母学院中学高等学校吹奏楽部様

4月17日、八幡市文化センターにおいて「第15回定期演奏会・チャリティーコンサート」を開催され、多数の視覚障害者をご招待いただきました。また、多額のご寄付を頂戴しました。運営資金として活用させていただきます。

大変ありがとうございました。

■城崎みちる様

4月17日、京都ライトハウスホールにおいて、「城崎みちる 歌のひととき」を開催され、多数の視覚障害者をご招待いただきました。

大変ありがとうございました。

ご寄付ご寄贈ありがとうございます！

次の通り、数々のご芳志をいただきました。厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

（50音順・敬称略）

2004年12月1日～2005年3月31日

寄付金 137件 11,481,254円

物品寄付・ご奉仕 224件

【寄付金】

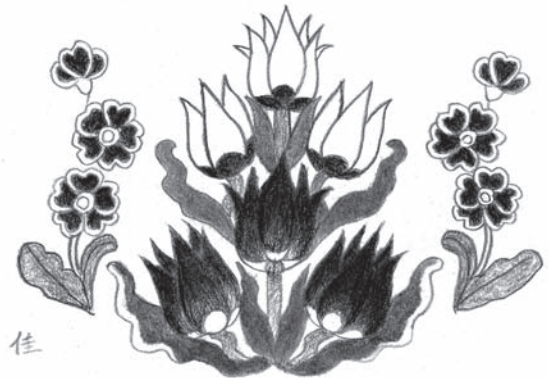
アイフル、アイベル、あや美容室、池側佳澄、池田良子、宇治リーディングボランティア、宇治市立木幡中学校、梅原浩子、大阪人間科学大学、大西眼科医院大西吉昭、奥村三千男、偕成社、梶宏、柏井医院柏井眞理子、橿原市障害者団体協議会、華頂短期大学、加藤恵美子、加藤博史、川口洋志、関西医科大学洛西病院、関西電力京都支店、京あゆみネット、京都ウイメンズクラブ、京都友の会、京都医療福祉専門学校、京都オムロン地域協力基金、京都市北区社会福祉協議会、京都市社会福祉協議会、京都市立高等学校人権研究会、京都府共同募金会、京都府視覚障害者協会上京支部、京都府社会福祉協議会、京都府立医科大学、京都府立大学、京都仏眼協会、京都堀川ライオンズクラブ、京都盲人福祉研究会、楠本啓子、公文茂人、倉田時子、黒川義直、国立身体障害者リハビリテーションセンター、小林光子、笹原五十鈴、佐野眼科診療所佐野貴之、塩川玄智彦、塩尻昭子、小代誠、生協会、高鳥善夫、武綾子、竹岡繁、竹田宗一、田中登美和、田中幸江、崔春夫、堤明子、津元磨生、同志社中学校、豆生庵、図書館ボランティア新年会参加者、中川照子、中澤眞佐、中橋彌光、中村安良文月会、西京区自治連合会、21伏見・夢と幸せはこぶ会、ニチコン、日本ライトハウス、日本福祉学院、日本共産党京都市議員団、野崎義久、ノスタルジーハウスグレ、長谷川きよ子、浜川妙子、ハムスターズ、ひまわり、フシの実会、藤坂忠子、藤原秀明、佛教大学、松浦木実、宮地雅子、村田稔、森山医院森山桂子、安田祐治、やすろうチャリティーゴルフ同好会、山下宗、山下久樹、弓削経夫、リンクの会、わかさ生活、ワコール、ワコール女子陸上競技部選手一同、匿名（43件）

【物品寄付・ご奉仕】

青垣会、青木玲子、青山弘、浅田八重子、浅見伸一、あすなろ会、足立久子、アルゴブレイン、安楽寺、池田喜美栄、池田善成、石田清枝、石田英世、石動正和、磯部治、磯辺美幸、一谷孝、伊藤純男、伊藤辰弥、井上高行、井上太平、井上正子、岩井小ミノ、岩瀬正美、岩田愛子、上田ゆり子、上村裕幸、内田務、梅本智子、江津久巳、NALC京都ことの会、大川勝三、大澤皮膚科医院大澤知子、大谷八重子、大西みち子、大町勝啓、岡崎佳子、岡本節乃、岡本タミ子、岡本ツヤ子、奥村久子、奥山晴生、乙訓点訳サークル、小野桂、小野登志子、小野昌子、御前偵三、温故学会、笠谷京子、梶原清一、霞会館福祉事業委員会京都支部、片岡洋裁材料店、家電製品協会、加藤克己、加藤純、加藤紀江、加藤房子、兼藤真弓、鎌田美代子、鎌谷成美、川上リツエ、川島吟子、河瀬須恵、城崎みちる、北居やすぞう、北垣せつ子、北川博美、北

村貞人、木下幸子、木原清香堂茶舗、木村淑子、木村芳子、京都産業大学新社会ボランティアサークル、京都水産協会、京都青果協会、京都赤十字点字友の会、京都パスターズクラブ、京都市立嘉楽中学校、京都市立八条中学校、京都市立楽只小学校、桐山まき子、キリンビバレッジ、クサカ自動車、楠本啓子、公益社、小寺洋一、後藤和恵、小柏淑子、小林光子、近藤加奈子、サークルにし、佐川せつ子、先山多久子、佐久間正雄、櫻庭修、佐古信子、佐々江温子、佐々木脩、笹田和子、佐藤恭子、佐藤雅子、佐野弘子、サン工芸、塩野友久、塩見章子、視覚障害者京都マラソン大会事務局、柴田慶子、嶋嘉枝、下奥重望、下條英子、朱常分店、白坂澄夫、新谷洋子、杉浦洋子、杉本保子、鈴木喜代美、鈴木さほ、鈴木美代子、砂田宣子、聖母学院中学高等学校コーラス部、同吹奏楽部、聖母女学院点訳部、瀬戸内寂聴、園山利子、染田泰子、高野嘉子、高橋勝子、竹田宗一、田中みゆき、棚橋きよ子、谷川正雄、田村潔、千葉支津枝、つくしの会、辻謙一、辻美也子、点友会、永井伽津子、中江利彦、中島田鶴、中島美津子、中田英子、中谷芳之介、中村健一、西井千恵子、西久保京子、西谷秀吉、西野美代子、西村ゆり、西村義朋、西山京子、2005年日本国際博覧会協会、日清医療食品近畿支店、日本点字図書館、野間起夫、畑勇子、服部テル子、林元治、馬場康子、深尾泰司、吹野喜久子、福井瑛子、福田叡子、福見久代、藤田慧子、藤村圭子、佛敎大学、仏敎婦人会総連盟、ブラザー製版印刷工業、古河美奈、平成16年度あいあい教室卒園児保護者一同、細井君子、堀田陽子、堀井勢都子、堀井富美子、本願寺出版社、前田ノリ、前田範仁、前田不二子、松崎美恵子、松本清、松本松扇、松本すみ子、美内輝子、三浦豊子、水口喜代子、三井住友海上火災保険、三村敏子、三村晴子、村上直子、村田雅彦、望月幸子、本永友彦、森初子、森遊子、森川初子、守屋新、八木睦子、矢田静八、山岸光夫、山下祐嘉里、山田留里子、山中良三、山畑文雄、山本巖、山本英子、山本貴巳子、山本恵江子、山本早苗、山本純、山盛良子、湯浅昭次、吉田恭子、吉田唱子、吉田善次、朗読グループあいあい、渡辺祐子、渡部隆三、渡部幸恵、草鞋庵、匿名(4件)

愛きもの、青山清子、明石進、明石隆子、明石勝行、アソカ幼稚園、穴井利文、荒井幸代、荒木靖子、五十嵐淳、池西照子、磯村春子、入江渥子、大園比路子、太田進、大平修爾、大森亮二、岡田めぐみ、緒方豊、奥山晴生、勝間寛治、川合正子、川島政雄、川田よしみ、川邊美佐子、河原畑昇、菊地寛子、喜多栢一、木下幸子、京都岩倉幡枝郵便局、京都教会女性会、京都丸太町教会シオン会、久佐の葉会、小島登美子、後藤齒科医院後藤亨、小西倫子、小林秀次、小藪忠志、小山信一、斉藤正一、酒井喜美子、坂井田正昭、佐々江温子、佐々木陽子、貞森克博、貞安英世、塩見章子、清水純市、白石晴土、杉村美代子、相愛幼稚園、高木啓子、高野綾子、高橋初枝、竹内文子、竹内鏡子、竹内徳治、竹原政乃、田尻潤子、田中千代子、田中汎子、棚橋きよ子、谷口かず子、玉田和江、田村裕二、戸田貴士、仲島トシエ、中谷徳夫、中西勇、中西美代子、中村哲、中村富子、南波悠紀子、西井千恵子、日本基督教団平安教会、信原朝子、服部俊子、濱崎孝正、林勝治、日野和洋、福田喜久子、福見久代、藤川照子、前島はるお、正木美穂、増田チヨ子、町田和行、松浦木実、松浦良雄、松岡良枝、松原義人、松村稔子、水口喜代子、道場恵美子、光川豊藝、三原ミサエ、村井喜美子、邨田志津子、森下令子、森本和子、森本晴規、山崎美幸、山下久樹、山田則道、山本フミ子、洛星中・高オーケストラ部、渡辺多鶴子、匿名(3件)



京都ライトハウス後援会より

次の通り、後援会費と運営資金寄付金を納入いただきました。会員の皆様のお名前を掲げ、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。(50音順・敬称略)

2004年12月1日～2005年3月31日
 後援会費 58件 350,000円
 運営資金寄付金 52件 991,520円

編集後記

前号の100号をきっかけに通信がホームページでも見ていただけるようになりました。

情報の在り方がどんどん変わっていきませんが、担当としてはそれを追いかけて行くのがやっとなので、通信をホームページで見たいというご要望にもとりあえずお応えできたというのが現状です。今後も色々ご要望にお応えできるよう努力するとともに、通信そのものも更に内容の充実を図り、もっと読みやすくしていきたいと思っております。(M)